

## 新聞情報所蔵登録の現状

名古屋大学附属図書館情報システム課  
雑誌掛 棚橋 是之

### 0) 取り上げるに至った経過

筆者は、1996年度から2年間、名古屋大学附属図書館において参考掛（現参考調査掛）に勤務し、主として参考調査業務に従事した。このなかで、新聞の所在情報についてエンドユーザからしばしば問い合わせを受けた。しかし、学外所蔵調査においてNACSIS-CATを利用して回答できた件数は少なかった。冊子体目録（注）を中心に利用したが、調査・刊行年次が古かったため、所蔵していそうな図書館等に照会することが多かった。筆者自身は本年度から雑誌掛に配置換えとなり、逐次刊行物の一環としての新聞資料についても所蔵情報の提供について考える必要が生じた。また、朝日新聞戦後50年(1945-1995)記事索引のCD-ROMが出版されたこと、本年度からNACSIS-WEBCATの本格運用が開始され、エンドユーザ自らが新聞所蔵情報の検索が増えることが考えられる。

本レポートでは、新聞資料の特性に留意しつつ、国内発行の日刊新聞を中心に、なぜNACSIS-CATへの収録件数が少ないのか、その背景を探ってみる。また、このような現況をふまえて幾つかの提言も行う。なお、本レポートの内容はすべてNACSIS-CATのレコードのみで分析を行ったため、各参加組織の実態は全く考慮していないことをあらかじめお断りしておく。

注) 現在、名古屋大学附属図書館参考カウンターに備え付けてある新聞所蔵目録は下記の通り。

- 朝鮮文雑誌・新聞総合目録，アジア経済研究所，1987
- 中国文雑誌・新聞総合目録，アジア経済研究所，1986
- 愛知県内公共・大学図書館所蔵新聞目録，1972
- 東海地区私立大学新聞目録，私立大学図書館協会西地区部会東海地区研究会，1988
- 東北地区大学図書館所蔵新聞目録（第2版），東北地区大学図書館協議会，1987
- 全国マイクロ新聞所蔵一覧（昭和62年11月末現在），国立国会図書館，1988
- 国立国会図書館所蔵アジア言語逐次刊行物目録（平成7年3月末現在），1996
- 国立国会図書館所蔵国内逐次刊行物目録（平成9年末現在），1998
- 国立国会図書館所蔵外国逐次刊行物目録（1996年末現在），1997
- 外国新聞所蔵目録（稿）1986年12月1日現在，東京西地区大学図書館相互協力会加盟館

### 1) 新聞資料の特性

本項では、新聞とは何か、をみてみたい。図書館情報学ハンドブックによると、「最新のニュースを中心として広く伝達することを目的とした、B3（ブランケット）判、あるいはB4（タブロイド）判で、綴じずに発行される逐次刊行物の一種（\*1）」である。その特徴として、すぐれた速報性ゆえに、読み捨てられるものとして制作され、紙質は一般に

劣悪であるが、その時代の社会事象を反映する調査研究資料としての価値は比類のないものといえる（\*2）。

しかしながら、その保存には多大なスペースを必要とし、そのため、最終的には原紙ではなく、縮刷版やマイクロフィルムで保存するケースが多い。

また、最近の動きとして、一部の全国紙で全文 CD-ROM 形式（電子縮刷版）でも出版されていること、また、保存の面でも分担保存の方向で協力体制を整える必要性があるとされている（\*3）。分担収集による永久保存ということになれば、その所蔵情報は対外的にみて“活用できる”ことになる。その所蔵情報が NACSIS-CAT ではどのような扱いとなっているのかを次項でみてゆく。

## 2) 学術雑誌総合目録所蔵全国調査における新聞資料の取扱い（収録方針の変化）

本項では、NACSIS-CAT の基礎となった、過去の学術雑誌総合目録所蔵全国調査について、同全国調査データ記入要項に記された新聞資料の扱いはどうなっていたかを振り返ってみる。

学術雑誌総合目録編集作業が東京大学文献情報センターに移管された 1983 年度和文編調査（刊行 1985 年）の収録方針には「研究論文の発表を主目的とした逐次刊行物を第 1 義的な収録対象とし、研究論文の発表を主目的とはしないが、実際に研究論文が掲載されている逐次刊行物を第 2 義的な収録対象とすること」となっており、データ集、作品集、資料集等は収録範囲に含めないことになっていた。

1985 年欧文編調査（刊行 1988 年）の収録範囲は「国内で所蔵される欧文の逐次刊行物」となっており、予備版に書誌データが掲載されていれば、新聞も含まれると解釈できる。後述するが、この調査時点で和欧含めて 92 件の新聞資料が NACSIS-CAT に登録されていた。

学術雑誌総合目録の編集が学術情報センターに移管され、かつ NACSIS-CAT を通じて報告が可能になった 1989 年和文編調査（刊行 1991 年）では、収録範囲として、「国内の大学、研究機関等において研究用資料として扱われる、和文の逐次刊行物」と指定されたが、「新聞・およびきわめて短期間の利用を目的とした資料は対象外」となっている。しかし、『全国調査データ記入説明会 Q&A』によると、「保存用新聞を含め、データ記入を行って構わない」旨記されたうえで、「収録範囲はあくまで範囲であって収録対象ではないので、当センターは、範囲内に該当する所蔵逐次刊行物すべてにデータ記入を強制するものではありません」とあった。これは保存される新聞資料の収録を事実上可能とした初のケースであろう。

1992 年欧文編調査（刊行 1994 年）では、「カレントの新聞、およびきわめて短期間の利用を目的とした資料は対象外」となっており、図書館において永久保存される新聞の記入ができることがより明確になった。また、記入要項別編には、この調査から試行された CD-ROM モニターに向けての要項が記されているが、コード一覧表の TYPE フィールドに「n：新聞」が登場している。

なお、1995 年和文編調査（刊行 1997 年）、および 1997 年欧文編調査（刊行予定 1999 年）では、おおむね 1992 年欧文編調査を踏襲している。なお、1995 年調査分から確認調査は廃止されている。

### 3) 現状

筆者注：本項でとりあげるデータ作成のための基礎データについては、学術情報センター事業部目録情報課から提供を受けました。

#### 3.1 書誌情報

NACSIS-CAT に TYPE : n として収録されている書誌数は、1998 年 10 月現在で 730 件（和書誌：346 件，洋書誌：384 件）となっている。年次ごとの新規書誌作成件数と累計は<表 1>の通りである。

なお、TYPE=n になっていないものについては抽出できなかったため、<表 1>には含まれていない。

また、1998 年 3 月に改訂されたコーディングマニュアル 6.1.14D2（和雑誌の TYPE コード）によると、複製資料の場合、フィールド記入は行わないことになっている。縮刷版、マイクロフォームは複製資料か否か判断が分かれることになるが、6.1.10E1（和雑誌複製コード：REPRO）に下記の通り新聞資料による例示がなされているので、縮刷版等は本来上記統計には含まれないはずだが、敢えてそのままとした。

#### 6.1.10E1 和雑誌複製コード：REPRO

目録対象資料が複製物である場合

REPRO:c TR:いはらき || イバラキ ED:縮刷版

REPRO:c TR:いはらき || イバラキ ED:[マイクロフィッシュ版]

筆者注：「いはらき（現：茨城新聞）」は NACSIS-CAT 未登録。

<表 1> 新聞資料の新規書誌作成件数年度別推移

新規作成年度	AA (旧洋資料)		AN (旧和資料)		総累計	所蔵全国調査時期	累計件数 対前年比
	単年度	累計	単年度	累計			
1985	81	81	11	11	92	欧文編	
1986	0	81	0	11	92		0.00
1987	24	105	2	13	118		1.28
1988	0	105	24	37	142		1.20
1989	33	138	22	59	197	和文編	1.38
1990	31	169	79	138	307		1.56
1991	26	195	42	180	375		1.22
1992	40	235	4	184	419	欧文編	1.12
1993	40	275	7	191	466		1.11
1994	32	307	8	199	506		1.08
1995	44	351	69	268	619	和文編	1.22
1996	11	362	30	298	660		1.06
1997	33		和洋統合		693	欧文編	1.05
1998	37		和洋統合		730		(1.05)

1998 年度は 10 月末までの値。

年度別にみても、全国調査実施年とその翌年に新規作成件数が増加しているが、新聞資料の入力が“公認”された1989年和文編調査以降、一時的に対前年比30%~50%の増加率を示していることがわかる。また、1995年和文編調査の際には、和資料ファイルで100件近くの新規書誌が作成されている。また、書誌ファイル全体に占める割合は、1998年10月現在、0.33%となっている。和洋ファイル統合前の1996年度末現在で和資料が0.35%、洋資料が0.29%で、トータルすると0.32%となる。

次に、NACSIS-CATに収録されている新聞資料に何があるかを探るため、日本新聞協会加盟157社のうち、新聞社111社（各地域本社がごとくに加盟している新聞社も含む）が現在発行している新聞を対象にして、NACSIS-CATで検索した。その結果、下記の通りとなった。

原紙・（縮刷版・マイクロも併せて）収録されていたもの：7件（朝日・読売・埼玉・沖縄タイムス・Japan Times・Asahi Evening News・Mainichi Daily News）  
縮刷版、マイクロ版またはCD-ROM版が収録されていたもの：22件（日刊工業・日本経済・日経金融・日経産業・毎日・日本繊維・日本農業・十勝毎日・北海道・北海タイムス・千葉日報・信濃毎日・中日・福井・北國・北陸中日・京都・中国・愛媛・西日本・八重山毎日・琉球新報）

以上の結果をみると、全国紙5紙の中では産経新聞が含まれていないことがわかる。また、地方紙については、学術雑誌総合目録全国調査に都道府県立図書館も参加していることから、ある程度の収録紙数があるかと思っただ、総じて少ないことも分かった。「学術雑誌総合目録」の「学術」にこだわったためだろうか。なお、地方紙の所蔵は発行所在地大学の他、東京大学社会情報研究所（旧東京大学新聞研究所）が縮刷版またはマイクロ版を所蔵登録しているものが上記地方紙のうち7タイトルある。

### 3.2 所蔵情報

本項では、所蔵情報についていくつかの観点からみてゆきたい。

<表1>でとりあげた書誌レコード730件（所蔵レコード数3287件）のなかから、所蔵レコード数が30以上の書誌レコードを抽出したところ、<表2>のとおり23件がリストアップされた。この23件の所蔵レコード1461件を対象に、各館所蔵情報（HLYR,HLVの各フィールド）を調べてみたところ、他館とは入力情報がことなるものがあり、その傾向を不整合情報として調べてみた。その結果、下記の5つのパターンに分類できた。このパターンごとに調べた結果、下記の通りとなった。ただし、所蔵レコードを眼で追って調べたため、不整合件数データが100%正しいとは限らないことをあらかじめお断りしておきたい。なお、については、VLYR欄に(1952)-と記入されていたため、通号で記入したとみられる1館を除き、すべて年月で記入されていた。そのため、この統計から除外した。A~Eの内訳は下記の通り。

- A．年月で巻号表示：95件
- B．巻次変更（セミコロン）位置の不一致：34件
- C．Vol.未使用：10件
- D．複数表記：2件
- E．複製資料について、原本の出版年次ではなく、複製年次が記入されていた：1件

<表 2> 所蔵館数 30 件以上の新聞資料と不整合原因

書誌 ID	タイトル	所蔵館数	原因別不整合件数					
			全体	A	B	C	D	E
AN10039258	朝日新聞(東京)ED:縮刷版	272	10	10	0	0	0	0
AA00313205	The New York review of books	112	0	/	/	/	/	/
AA00637692	Eos	104	0	/	/	/	/	/
AA00494201	Die Zeit	70	7	7	0	0	0	0
AA00288414	Le Monde. Selection hebdomadaire	69	11	9	2	0	0	0
AN00328088	財政経済弘報	68	0	/	/	/	/	/
AN10037434	日経産業新聞 ED:縮刷版	67	16	16	0	0	0	0
AA00449557	The Times educational supplement	61	5	4	1	0	0	0
AN10037423	日経流通新聞 ED:縮刷版	59	11	11	0	0	0	0
AA10512467	Commercial and financial chronicle	59	2	1	1	0	0	0
AN1007280X	圖書新聞	56	8	3	3	0	2	0
AN10036883	日刊工業新聞 ED:縮刷版	49	20	7	13	0	0	0
AA00315696	Les Nouvelles litteraires : artistiques et scientifiques	48	23	2	11	10	0	0
AN10055935	東洋自由新聞 ED:復刻版	46	1	0	0	0	0	1
AN10167939	週間読書人	41	0	/	/	/	/	/
AA10463033	The London review of books	40	0	/	/	/	/	/
AN10035246	日本教育新聞 ED:縮刷版	39	2	1	1	0	0	0
AN00344663	国立博物館ニュース	36	0	/	/	/	/	/
AN1004249X	日本読書新聞	35	5	5	0	0	0	0
AA00449535	The Times	35	15	15	0	0	0	0
AA00009135		33	(1)	/	/	/	/	/
AA00325805	The Observer	32	6	6	0	0	0	0
AA00198978	The Guardian weekly	30	0	/	/	/	/	/

注) 斜字は VLYR フィールドに初号・終号情報が記入されていることを示す。

コーディングマニュアル 17.2.2D3「巻次の表現形式は、当該書誌の VLYR フィールドで採用した表現形式による」の規定により、VLYR フィールドに初号もしくは終号情報が記入されていれば、HLYR,HLV フィールドに各館統一した書き方ができているかと思われたが、必ずしもそうとはいえないことが上記の表からわかる。

次に、上記 A~E について下記に例示する。なお、スペースの都合上、書誌レコードについては、書誌 ID,TR,VLYR の各フィールド、所蔵レコードについては、HLYR,HLV の各フィールドのみを抽出した。

- A : 巻号表示に年号をあてた典型的なケース  
 TR: 日経流通新聞(縮刷版)<AN10037423>  
 VLYR: 1 巻 1 号 (1982.9/10)-  
 【例 1】西暦で記入したケース  
 HLYR: 1982-1995

HLV: 1982(9-12),1983-1995

【例 2】元号で記入したケース

HLYR: 1985-1989;1989-1995

HLV: 60-63;1-7

B : 巻次変更 ( セミコロン ) 位置の不一致

TR: 日刊工業新聞 ( 縮刷版 ) <AN10036883>

VLYR: No.1 ( 昭 35.9 )-no.354 ( 平 2.2 ) ; 31 巻 3 号 ( 平 2.3 )-

【例 3】区切りなしで通算して記入されたケース

HLYR: 1966-1995

HLV: 65-424

【例 4】区切り位置が間違っているケース ( 実際には HLYR の記入ミスの可能性大 )

HLYR: 1963-1988;1989-1995

HLV: 34-94,113-354;31-36

【例 5】A,B が重なったケース ( 前半は年号 , 後半は巻号で記入された )

HLYR: 1970-1974;1994-1995

HLV: 45-48,49(1-4);35(5-12),3

C : Vol.未使用

TR: Les Nouvelles litteraires : artistiques et scientifiques < AA00315696 >

VLYR: Annee 1, no 1 ( oct. 21, 1922 )-annee 36, no 1552 ( mai 30, 1957 ) ; No 1553 ( juin 6, 1957 )-no 1787 ( nov. 30, 1961 ) ; Annee 39, no 1788 ( dec. 7, 1961 )-annee 61, no 2893/2894 ( juil./aout 1983 )

【例 6】B,C が重なったケース

HLV:1956-1983

HLYR:1479-1582,1635-1746,1748-1802,1804-2084,2086-2237,2239-2267,2269-2272, 2274-2343,2345-2411,2413-2708,2710-2736,2769-2894

【例 7】B,C が重なったケース

HLV: 1973-1979;1979-1984;1986-1986

HLYR: 51(),52-55,56()-57();2694-2723,2768-2939;5-8

D . 複数表記

TR:圖書新聞 <AN1007280X>

VLYR:1 号 ( 昭 24.6.25 )-

【例 8】( 2 つの通号が書かれていたケース。なぜ 2 つの巻号記入がなされているか , 当該資料を初号から通覧しないとわからない。 )

HLYR: 1993-1996

HLV:2140(823),2141(824),2142(825),2143(826),2144(827),( 中略 ),2283(968),2284(969)

E . 複製資料について , 原本ではなく , 複製年次が記入されていた例

TR:東洋自由新聞. -- 復刻版. -- <AN10055935>

VLYR: 1 號 (明 14. 3)-34 號 (明 14. 4).

【例 9】( HLYR の記述ミスもある )

HLYR: 1964

HLV: 1964-1964

ここで、HLV フィールドへの表記法について検討したい。まず、記入の前提条件として、巻レベル・号レベルの 2 階層で入力することが原則となっている（コーディングマニュアル 17.2.2D7.1.1）。かつ、コーディングマニュアル 17.2.2D7.1.4 HLV フィールド記入において、「巻レベル、号レベルとして扱うものの具体例」があげられている（下記参照）。

<表 3> コーディングマニュアル 17.2.2D7.1.4

巻レベル、号レベルとして扱うものの具体例

	目録資料上での 実際表現	記入上でのレベル	
		巻レベル	号レベル
1 階 層	号 通号 / 号 巻 年次	号 通号 巻 年次	- - - -
2 階 層	号1) - 分冊 巻 - 号1) 巻 - 号 / 通号 巻 - 月次 巻 - 分冊 年次 - 月次 年次 - 号1)	号 巻 巻 巻 巻 年次 年次	分冊 号 号 月次 分冊 月次 号
3 階 層	巻 - 号1) - 分冊	巻	号

- 1) 表示上あるいは実質上、通号である場合を含む。
- 2) 通号が変遷前誌から引き継いだものであり、号のほうがその逐次刊行物固有の巻次である場合は、号を採用する。
- 3) 号レベル以下のものが全部揃っていない場合、その号レベルは欠号扱いとする。

日刊の新聞資料の場合にも、通常の逐次刊行物同様、発行日付と通号が表記されているが、新聞資料の場合は、通号よりも発行日付のほうが当該資料へのアクセスしやすい特性がある。例えば、1998 年 10 月 12 日発行（通号第 24582 号）に検索したい記事が掲載されているという場合、エンドユーザからいえば、通号第 24582 号と書かれているよりも発行日付（1998 年 10 月 12 日）で書かれているほうが目的とする資料にアクセスしやすい。

このことを考慮して、上記<表 3>を検討すると、日刊の新聞資料の所蔵情報を記述する場合、次の3つの方法が考えられる。

通号のみを1階層として表示する場合

年次 - 号（注記1により、通号も含まれる）を適用して2階層で表示する場合

年次 - 月次を適用して2階層で表示する場合

一般的に、日本の国内日刊新聞の場合、3階層で表現できる「巻 - 号 - 分冊」にはあたらないので、表記できるのは通号だけとなり、を適用するのが妥当と考える。しかし、「月刊」となる縮刷版となると、縮刷版の通号でも書かれているが、2階層で記入する原則も考えられる。さきに取り上げた朝日新聞縮刷版のように、通号だけではなく、年次 - 月次でも表現可能とも解釈できる。

外国新聞の場合、Vol.と No.を併用して表示されているケースがあるが、この場合は、を適用することになり、それで明確である。

ここで、“三者三様”の記入により、どれが正しいと思われる記述なのかわからないケースを例示する。

TR: Le Monde. Selection hebdomadaire <AA00288414>

VLYR: 1. annee, no 1 (du 23 au 29 oct. 1948)-

【例 10】

HLYR:1971-1979

HLV:8077-10861

【例 11】

HLYR:1971-1986

HLV:1971-1974,1975(1369-1407,1409-1418),1976-1985,1986(1-8)

【例 12】

HLYR: 1970-1971

HLV: 38,41-119

【例 13】

HLYR: 1967-1981

HLV: 950-1207

1970年から1971年を注目してみると、【例 10】では1971年が8077になっているが、【例 11】は西暦年を巻号表示しているケース、【例 12】は巻表示、【例 13】は通号表示とみられる。これでは、所蔵登録しようとした場合、どの情報を参考にして入力したらいいのかわからない。

いずれにせよ、不統一なのは登録作業員・ユーザ双方にとっても不便なので、具体例を提示したうえで記述内容の統一を図るのが適切と思われる。例えば、目録システム講習会（雑誌コース）の登録課題集に製本済新聞資料を例示し、所蔵レコード登録方法を指導することが考えられる。このことにより、所蔵情報の登録が進むことが考えられる。

また、上記のような不整合の状況や、JPMARC から流用で新規書誌を作成する際、初号を所蔵していない確率が高く、VLYR フィールドが記入不能となるケースが多くなるこ



とが考えられる。そこで、新聞資料に限り、所蔵フィールド入力基準を緩和することも考えられる。具体的には、書誌レコードの TYPE : n になっているものだけに限り、下記に掲げるパターンでの入力を認めるのが一つの方法である。これは、現物調査・入力者にとってはデータを起こしやすくなること、エンドユーザにとっては具体的な所蔵号がわかりやすくなるといった反面、緩和という形で複数の基準を作ってしまうとレコード記述の整合性が取れなくなること、現行で 4000 バイトとなっているフィールド長がひっ迫しかねないこと、また、1 日単位の欠号が多くなる可能性が高いため、不完全巻表示の ( ) が多くなるという短所が考えられる。

#### <コーディングマニュアル 17.2.2D7.1.4 緩和案>

3 階層の例として、年 - 月 - 日を加える。この場合、年が巻レベル、月が号レベルになる。

2 階層の例として、月日を 4 桁に読み替えて号レベルで入力することを認める（例：1 月 2 日 0102 号）。この場合、月代わりの時期は通算したものとみなす。

#### 4) エンドユーザに利用しやすくするためには

エンドユーザにとって、新聞資料を利用するにあたり、次の 2 つの観点があると考えられる。

過去の記事の書誌データをもとに過去の新聞を検索する。

とりあえず過去 1 年程度だが、とりあえず通覧してみたい。

前者については、NACSIS-CAT に所蔵情報が入力されていることが前提になる。後者については、各館のホームページ、OPAC 画面もしくは冊子体目録とを併せて調べるのが現状である。特に、一時保存の場合は NACSIS-CAT に登録しないことになっているので重要な手がかりになる。

しかし、NACSIS-CAT に受入中情報を表示させるひとつの方法として、HLYR と HLV にアスタリスク（購入予定雑誌）を記入したうえで、LDF フィールドに「最新版のみ所蔵」と記入してあるケースが実際にある。LDF フィールドに入力されている情報のため、WEBCAT でみることはできないが、参考カウンターなどで NACSIS-CAT を操作すればみることができるので、図書館間での利用照会（参考調査）には活用できることになる。

#### 5) まとめ

以上の結果から、本レポートを下記の通り総括する。

学術雑誌総合目録全国調査においては、新聞情報の登録は緩和されており、ある程度の増加はみられている。

国内一般紙の新聞情報、特に製本された原紙の情報については、NACSIS-CAT への登録、すなわち所蔵公開はあまりすすんでいない。ただし、所蔵公開の強制力はないので、この点での解決は各参加組織の判断にゆだねられる。

HLV, HLYR フィールドの記入方法が必ずしもコーディングマニュアル通りになっていないところがある。したがって、他館の情報を参考にし登録しようとする混乱に

陥ることがある。そのためには新聞資料にかかるコーディングマニュアルの緩和または新設定が考えられるが、緩和の場合は、エンドユーザに所蔵情報がわかりやすくなる可能性がある反面、レコード記述の整合性がいままで以上にとれなくなる可能性がある。

上記所蔵情報入力の特蒙策として、目録システム講習会（雑誌コース）において、新聞情報の登録実習を行う。

最初に記した通り、本レポートは NACSIS-CAT のレコードのみで分析を行ったため、各参加組織の実態は全く考慮していない。したがって、登録情報が少ない現状については各参加組織独自の問題点（保存上の理由等）も考えられる。

将来、新聞資料の分担保存が一般的になったとき、各館の所蔵情報は NACSIS-CAT 上で有効に利用されることになる。そのため、少なくとも製本により保存される新聞資料については、雑誌書誌レコードにかかるコーディングマニュアル通りに登録作業を行えば問題がないことをアナウンスする必要がある。

また、新聞情報については原紙の場合、原稿締切時間・各地方面、あるいは朝刊・夕刊・統合版による内容の差異を書誌レコード上でどう表現するかといった細かい問題が生じると思われるが、ここでは問題提起にとどめておくことにする。

## 6) 謝辞

今回の研修レポート作成に当たり、学術情報センターおよび名古屋大学附属図書館の皆様には資料・データ提供等多大な協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。

## <引用文献>

- 1：図書館情報学ハンドブック，1988，P.275
- 2：篠原ミカ．欧米の国立図書館における新聞資料．国立国会図書館月報．424，p.2(1996)
- 3：光斎重治，中嶋正夫編．“5.3.4 新聞の保存”．逐次刊行物，日本図書館協会，1986，p.141